

令和元年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－7号)

農林総合研究センター
令和元年7月8日調査

気象経過

< 平年対比 >

【平均気温】

- ・ 6月第6半旬は、金沢、輪島ともかなり高い（平年差：金沢+1.7℃、輪島+1.1℃）
- ・ 7月第1半旬は、金沢、輪島ともかなり高い（平年差：金沢+0.8℃、輪島+0.8℃）

【日照時間】

- ・ 6月第6半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない（平年比：金沢 73%、輪島 70%）
- ・ 7月第1半旬は、金沢、輪島ともに並（平年比：金沢 111%、輪島 101%）

【降水量】

- ・ 6月第6半旬は、金沢、輪島ともかなり多い（平年比：金沢 267%、輪島 344%）
- ・ 7月第1半旬は、金沢、輪島ともかなり少ない（平年比：金沢 25%、輪島 20%）

【1ヶ月予報】

7月4日発表の1か月予報（7月6日～8月5日）では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 出穂期予想

ゆめみづほは、近年に比べ加賀地域で2日程度早く、能登地域で3日程度早い。

コシヒカリは、平年に比べ加賀地域は2日程度早く、能登地域は3日程度早い。

ひやくまん穀は、加賀地域で近年より2日程度遅く、能登地域は近年より2日程度早い。

【品種別地域別出穂期予想】

ゆめみづほ	加賀：7月15日～7月17日	近年より2日程度早い
	能登：7月19日頃	近年より3日程度早い

能登ひかり	能登：7月23日頃	近年より1日程度早い
-------	-----------	------------

コシヒカリ	加賀：7月26日～7月31日	平年より2日程度早い
	能登：7月30日～8月1日	平年より3日程度早い

ひやくまん穀	加賀：8月3日～8月7日	近年より2日程度遅い
	能登：8月8日頃	近年より2日程度早い

2. 草丈

ゆめみづほは近年比101%（加賀地域：100%、能登地域：102%）と近年並。

コシヒカリは平年比100%（加賀地域：99%、能登地域101%）と平年並。

ひやくまん穀は近年比103%（加賀地域：105%、能登地域100%）と加賀地域ではやや長く、能登地域では近年並。

3. 茎数

ゆめみづほは、近年比108%（加賀地域：113%、能登地域：97%）と加賀地域ではやや多く、能登地域では近年並。

コシヒカリは、平年比103%（加賀地域：104%、能登地域101%）と平年並。

ひやくまん穀は、近年比108%（加賀地域：104%、能登地域：112%）と加賀地域では近年並で、能登地域ではやや多い。

m²当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	489本	（平年比 103%	前年比 102%）	27.2	本/株
	加賀	486本	（平年比 104%	前年比 105%）	26.7	本/株
	能登	493本	（平年比 101%	前年比 98%）	28.0	本/株
ゆめみづほ	県平均	563本	（近年比 108%	前年比 106%）	31.6	本/株
	加賀	588本	（近年比 113%	前年比 110%）	32.8	本/株
	能登	513本	（近年比 97%	前年比 97%）	29.0	本/株
ひやくまん穀	県平均	510本	（近年比 108%	前年比 107%）	26.0	本/株
	加賀	513本	（近年比 104%	前年比 112%）	26.8	本/株
	能登	507本	（近年比 112%	前年比 102%）	25.3	本/株

4. 葉色

コシヒカリの葉色は3.9（葉色板値）で、平年並で前年に比べてやや淡い。
（加賀地域：平年比95%、前年比93%、能登地域：平年比：97%、前年比92%）
ひやくまん穀の葉色は4.6（葉色板値）で、近年及び前年並となっている。

【病害虫の発生状況】

1. 雑草地におけるカメムシ類の発生は平年値より多く、特に飛翔性カメムシ類が多い。
2. セジロウンカが6月25日に初確認されている。（平年6月27日）
3. イネツトムシ、イナゴの食害が散見される。
4. 紋枯病が7月3日に初確認された後、各地で確認されている。（初確認：平年6月30日）

当面の対策

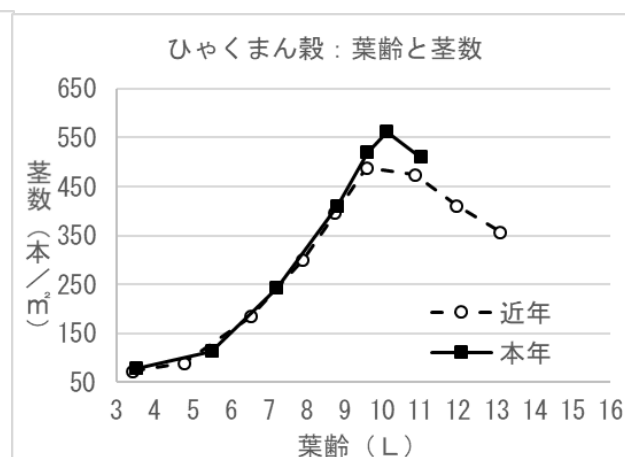
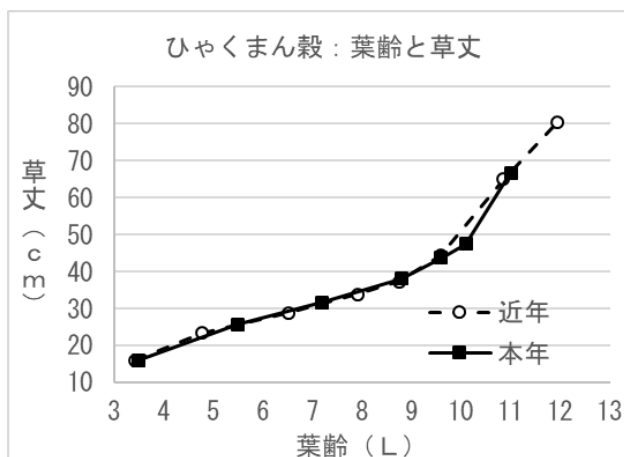
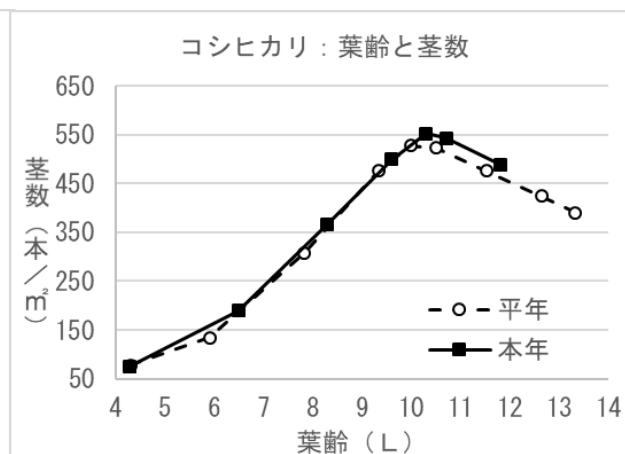
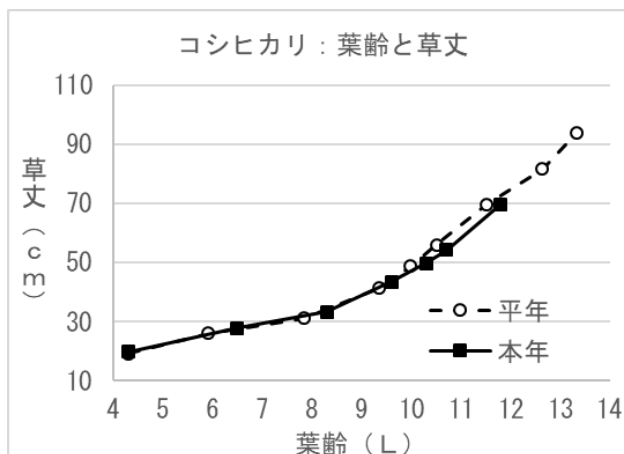
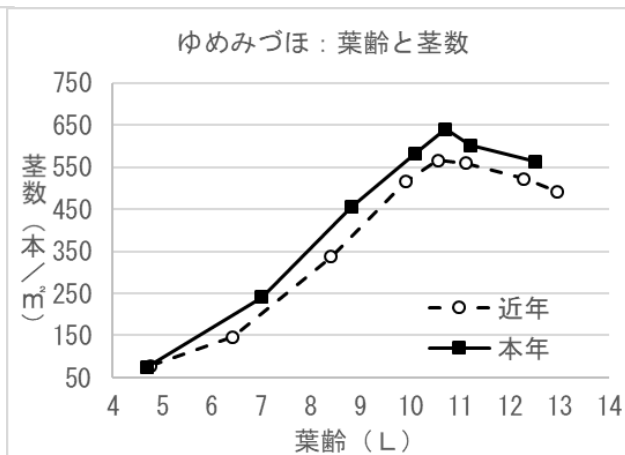
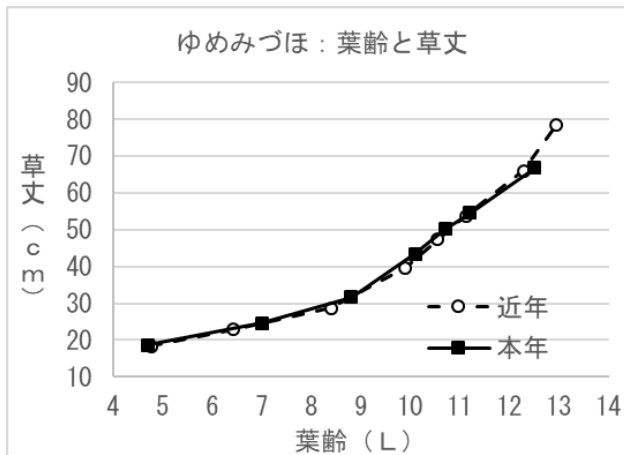
1. 分施肥系ゆめみづほの穂肥：2回目の穂肥施用は葉耳間長±0cm（出穂10日前）とし、施肥基準量を守り、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに終える。
2. 早生品種は7月15日以降から順次出穂期となる。出穂期以降は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。
なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
3. 普通期コシヒカリは幼穂形成期となっている。中干しを終了し、早生品種同様、間断通水による飽水管理とする。
晩期コシヒカリ（5月20日以降田植え）及びひやくまん穀については、7月15日頃を目安に中干しを終了し、その後は間断通水による飽水管理を行う。
4. 分施肥系コシヒカリの穂肥：1回目の穂肥施用は、幼穂長15mm（出穂15～16日前）、葉色板値3.5を確認して、遅れずに施用する。ただし、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより倒伏を防止する。
2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
5. 分施肥系ひやくまん穀の穂肥：1回目の穂肥施用は、幼穂長2mm（出穂20日前）、葉色板値4.0を確認して、遅れずに施用する。ただし、草丈が長く葉色が濃いほ場や茎数が多いほ場では、施用時期を遅らせたり減肥することにより籾数過剰を防止する。
2回目の穂肥は、登熟向上のため確実に施用する。
6. 基肥一発体系のひやくまん穀への上乗せ追肥
 - (1) 低地力のほ場
加賀地域では7月26日～29日頃、能登地域では7月29日～8月1日頃に、すべてのほ場において、窒素成分で10a当たり1～2kgの上乗せ追肥を施用する。
 - (2) 地力のあるほ場

加賀地域では7月26日～29日頃、能登地域では7月29日～8月1日頃に、葉色（葉色板）を必ず確認し、葉色が4以下の場合のみ、窒素成分で10a当たり1～2kgの上乗せ追肥を施用する。

7. いもち病については、常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行い、葉いもちの発生を認めたら周辺ほ場を含めて直ちに防除を実施する。また、葉いもち発生の有無に関わらず、出穂前後の穂いもち防除を徹底する。
8. 紋枯病については発生が確認されており、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では発生に注意し、防除を徹底する。薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。
9. 稲こうじ病の防除については、出穂前15～10日に実施すること。
10. 今後の畦畔や農道の除草はカメムシ類の本田侵入を助長するので、やむを得ず除草をする場合は、本田防除の直前に行う。
※本田カメムシ防除の留意点
出穂期が7月：出穂後7～10日と14～17日の2回の防除を徹底する。
出穂期が8月：出穂後7～10日の防除を徹底する。
11. 出穂期が近年、平年に比べ早まることが予想されています。今後の気象情報に留意し、出穂期に応じた防除計画や共乾施設の稼働計画等の再確認を行うこと。

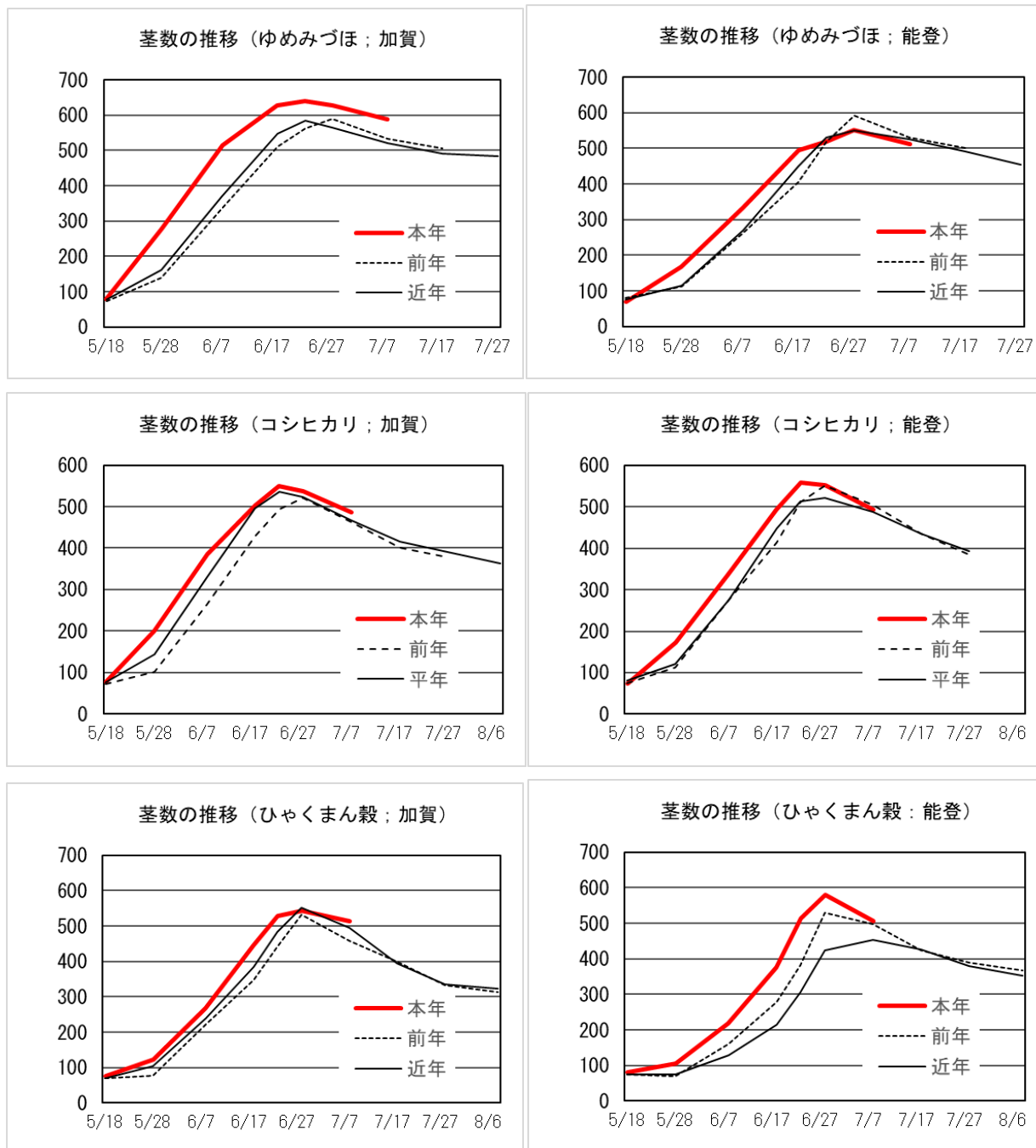
<参考：茎数の増加傾向>

・葉齢を基に茎数の増加を平年または近年と比較すると、ゆめみづほ、コシヒカリ、ひやくまん穀ともにやや多くなっている。

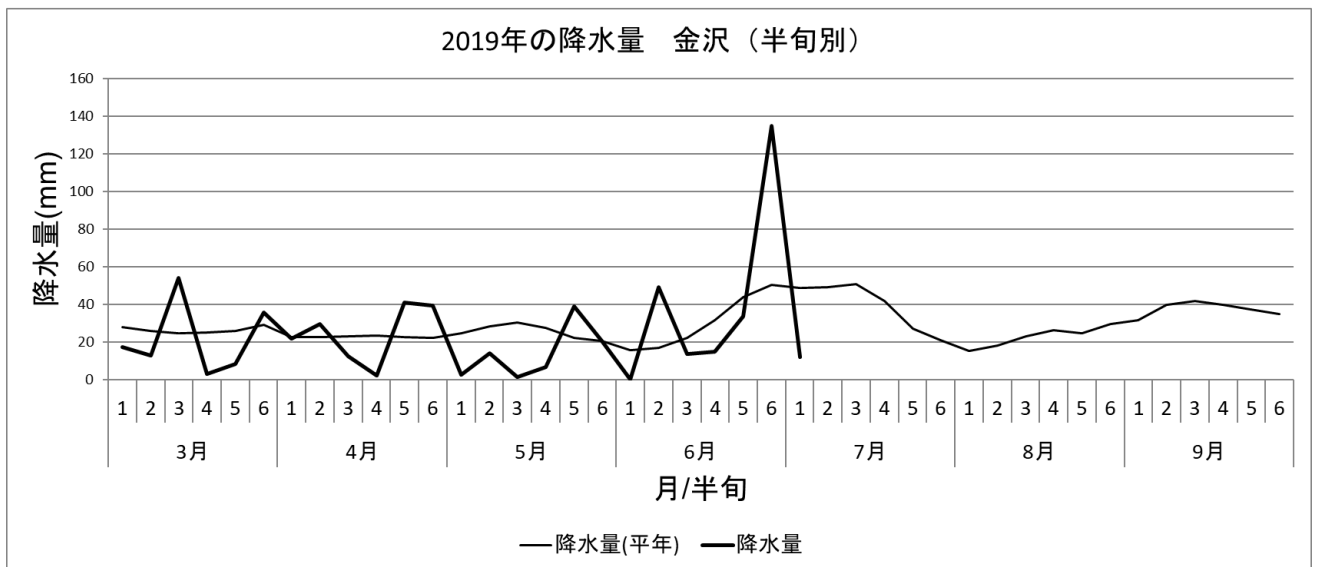
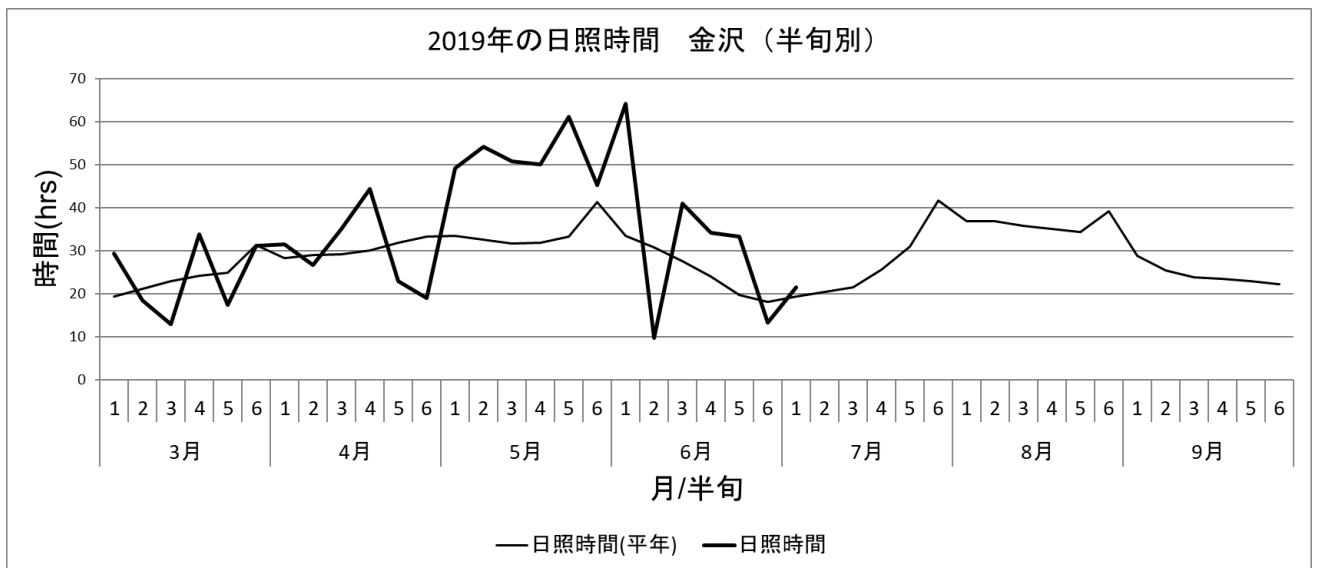
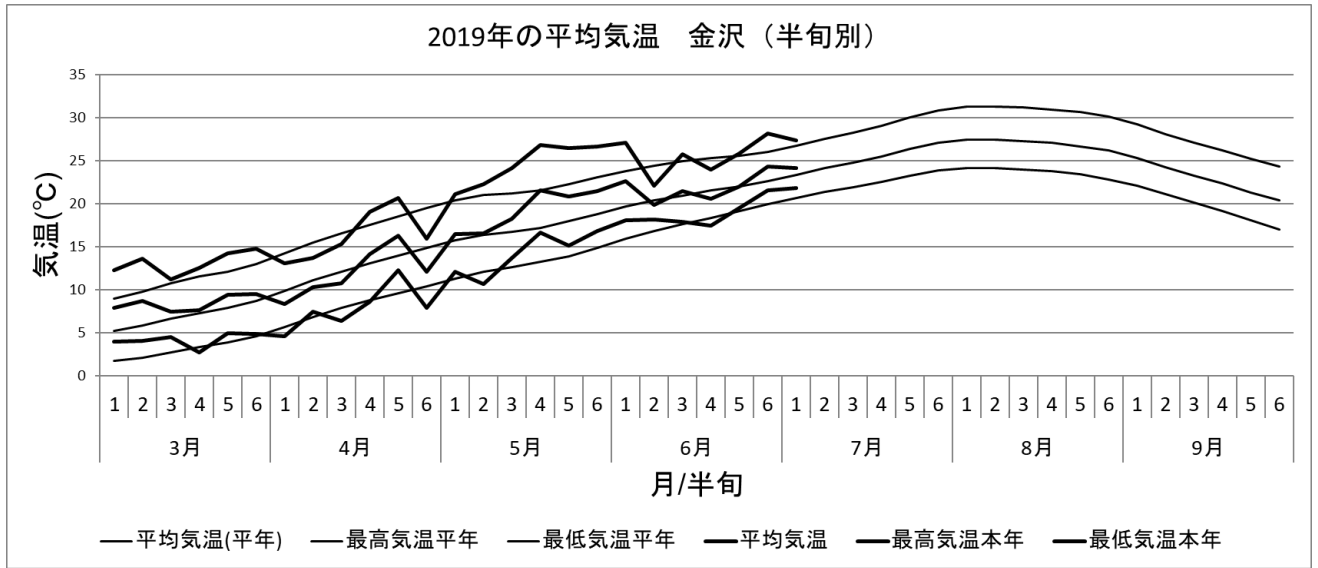


<参考：地域別茎数の推移>

- ゆめみづほの最高分けつ期は、加賀地域は6月23日頃、能登地域は6月28日頃となった。現在の茎数は、加賀地域は近年及び前年より多く、能登地域は近年並及び前年並。
- コシヒカリの最高分けつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月23日頃となった。現在の茎数は近年並及び前年並。
- ひやくまん穀の最高分けつ期は、加賀地域、能登地域ともに6月28日頃となった。現在の茎数は、加賀地域は近年並で前年よりやや多く、能登地域は近年よりやや多く前年並。



気象経過イメージ（金沢气象台）



気象経過イメージ（金沢気象台）

